



第2期真狩村子どもたちの読書活動推進計画

平成22年度～平成26年度



真狩村子どもたちの読書活動推進委員会
真狩村

はじめに	1
------	---

第1章 基本的な考え

1 計画の目的	2
2 計画がめざすもの	2
3 真狩村の現状	3
4 計画の柱及び具体的な目標	5
5 計画の対象	5
6 計画期間	5

第2章 具体的な取組

1 家庭・地域における読書活動の推進	6
2 学校等における読書活動の推進	7
3 公民館図書室における読書活動の推進	8
4 関係機関の連携・協力による読書活動の推進	9

真狩村子どもたちの読書活動推進計画推進項目	10
-----------------------	----

参考資料1 第2期真狩村子どもたちの読書活動推進計画検討経過	12
--------------------------------	----

参考資料2 こども読書アンケート結果	13
--------------------	----

あいさつ	21
------	----

真狩村子どもたちの読書活動推進委員名簿	22
---------------------	----

はじめに

昨今、読書がもたらす様々な効果が検証され、子どもの読書に関する必要性が叫ばれております。

国においては、平成12年を「子ども読書年」とする決議が衆参両院でなされ、平成13年12月には、子どもの読書活動の推進を目的に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定、翌14年には、この法律に基づき「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定されました。この法律の中では、子ども読書活動の推進のための国の責務や地方公共団体の責務、保護者の役割などが述べられております。本村においては、このような背景を契機に平成17年「真狩村子どもたちの読書活動推進計画」を後志管内ではいち早く策定し、子どもたちの読書活動の推進に力を入れてまいりました。

計画を策定し5年経過いたしました。現在も読書離れの要因ともいえるインターネットやゲームの普及、娯楽の多様化が時代とともに日々驚異的な速さで進展しています。また、犯罪の凶悪化・低年齢化が大きな社会問題となっており、子どもの心の教育の重要性は益々高まっております。

本を読むことは、「心の栄養」ともいわれ、私たちは本を読むことで、色々なことばや知識を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにし、人生をより深く生きる力を身につけてまいりました。当然、子どもの心の教育に読書活動は大変重要な意味も持っています。

子どもが本を身近に感じ、自主的に読書を楽しむことができるためには、学校・家庭・地域・関係機関等が連携し、社会全体が一丸となって読書環境を整備する必要があります。こういった環境整備は「地域の子どもたちを地域で育てる」という我々地域の大人たちの責務といっても過言ではありません。

平成17年に計画を策定してからこれまでに、読書活動の活性化のため様々な事業を地域全体で取組んでまいりました。子どもたちの読書活動推進委員会が主体となって実施している「読書まつり」の開催や各学校が取組んでいる「朝読書」、ボランティアが中心となって実施している「おはなし会」、「ブックスタート」、「読み聞かせ」など読書活動が地域の中で広がりを見せており、読書に関する多くの財産ができました。

今後も読書活動を通じ、より一層子どもたちが心豊かでたくましく成長できることを願うとともに、全村的な読書活動が一層広がることを念願し、ここに「第2期真狩村子どもたちの読書活動推進計画」を策定いたします。

平成22年3月

真狩村教育委員会

教育長 飯田 憲 司

第1章 基本的な考え

1 計画の目的

読書は、考える力を養い、豊かな感性や情操を培い、幅広い知識を得て考える力を育て、想像力を育む上で欠かせないものです。とりわけ、子どもにとっての読書は人間形成・人格形成の基礎を築く上で大きな役割を果たします。

しかし、近年様々なメディアや娯楽の台頭、インターネットをはじめとする情報化社会の進展などが子どもたちの興味・関心を多様化させており、社会が求めた、いわゆる「便利な社会」が読書推進への大きな弊害となっております。次代を担う子どもたちが読書を通じ、自ら考え、判断し、表現をし、主体的に生きていくため、本村では読書活動の推進に努めてまいります。

真狩村では、平成17年に「真狩村子どもたちの読書活動推進計画」（計画期間：平成17～21年度）を後志管内の市町村でいち早く策定し、子どもの読書活動の推進に力を入れてまいりました。また、小中学校での「朝読書」や読書活動推進委員会主催の「読書まつり」、おはなしポテトによる「おはなし会」など子どもの読書活動に関する様々な事業も展開しているところですが、前計画での反省や子どもたちの現状の再認識し、本村の実情を踏まえながら、多様な効果を持つ子どもたちの読書活動を総合的に推進するため、「第2期真狩村子どもたちの読書活動推進計画」を策定するものです。

2 計画がめざすもの

子どもたちが夢や希望を持ち、健やかに育つためには、学校における教育活動はもとより、学校・家庭・地域が一体となり、地域全体で子どもたちを育む必要があります。

とりわけ、子どもたちが本に親しむことは、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにし、より強く生き抜く力を身に付けることに役立つことだと考えます。こうした本との出会いのきっかけを作ることは、私たち大人の役割でもあります。

本村では、いくつかのボランティア団体が子どもたちの読書活動の推進に大きな役割を果たしております。おはなしポテトによる「おはなし会」や保育所、小学校等での読み聞かせ、すくすくブックによるブックスタート事業等での乳幼児への読み聞かせの実施、真狩村子どもたちの読書活動推進委員会の活動（読書まつり・フリー図書棚など）など、子どもたちが読書に親しむきっかけや地域での読書活動の定着を目指し活動を行っております。

子どもたちの読書活動の推進に取り組むボランティアや学校、保育所、関係機関そして公民館図書室などが一緒に連携し、子どもたちにとって楽しく素晴らしい読書環境を地域全体でつくっていくことを目指してまいります。

3 真狩村の現状

(1) アンケートの実施から

平成21年11月に真狩村子どもたちの読書活動推進委員会では、村内の小学生・中学生・高校生を対象にアンケートを実施いたしました。

■回答	小学生低学年（1～3年生）	51名
	小学生高学年（4～6年生）	40名
	中学生	49名
	高校生	63名

■回答者の読書に関する概要は次のとおりです。（アンケート詳細はP13～）

- ① 全体の59%が「読書が好き」と回答。「どちらかといえば好き」が33%、「どちらかといえば嫌い」が5%、「嫌い」が3%となっています。
- ② 「本を読むのはどうしてですか？」の設問に、全体の81%が「おもしろいから」と回答。以下、「ためになる」35%、「調べものをする」17%の順。
- ③ 1ヶ月の平均読書冊数は、小学生低学年で7.5冊、高学年が8冊、中学生が4冊、高校生が2.2冊。
- ④ 小学生は約3割が10冊以上読書しているが、年齢が上がるにつれ減少傾向にある。朝読書を実施しているはずの小中学校でも、6～10%の児童・生徒が0冊と回答している。
- ⑤ 読んだジャンルは、小学生は児童書、趣味・スポーツなどが上位。中学生以上は恋愛小説や推理小説、趣味・スポーツが上位。
- ⑥ 本をあまり読まない児童・生徒は、ゲームやテレビ、勉強、部活動等に忙しく「本を読む時間がない」という現状で、「読みたい本がない」との回答も35%あった。
- ⑦ 「小さいときに周りの人に本を読んでもらいましたか？」の設問には、「本をよく読んでもらった」と48%が回答。読んでくれた人は、お母さん、先生、お父さんの順が多い。また、「よく読んでもらった」と記憶している子どもの72%が「本が好き」と回答しているので、乳幼児期での読み聞かせは、本が好きな子に成長することに非常に有効であると分析できる。
- ⑧ 小学生は9割以上が、1ヶ月で1回以上学校の図書室を利用しているのに対し、中学生は約半数が1ヶ月で1回も利用がない。1ヶ月で1回も利用しない理由の1位が「読みたい本がない」。
- ⑨ 公民館図書室の利用は、全体の約半数が1ヶ月に1回以上利用しているが、年齢が上がるにつれ利用頻度は減少傾向。高校の図書室としての機能もあるが、高校生の利用は約3割である。
- ⑩ 各種事業（読書まつり・おはなし会・フリー図書棚）は、全体的に認知不足の傾向で、特に中高生にその傾向が顕著である。

(2) 真狩村子どもたちの読書活動推進計画（平成17～21年度）の
ふりかえりと今後への課題

真狩村教育委員会及び真狩村子どもたちの読書活動推進委員会では、推進計画を平成17年に策定し、5年が経過しました。子どもたちの読書活動推進のため、様々な事業を行ってまいりましたが、次のような反省・評価・今後への課題が挙がっています。

■反省・評価・今後への課題

- ① 子ども向けのオススメ本を紹介していたが、広報まっかりなどで紹介していたため、子どもが目にする機会が非常に少なかった。今後は「子ども向けの読書だより」の発行が必要。
- ② 子どもたちが公民館図書室にくることが少なかったため、今後はより身近な存在にするため、ホームページ等の開設が必要。ホームページによる蔵書検索は、関係機関の連携強化にも有効である。
- ③ 図書購入に関しての関係機関の連携（本の貸し借り・リクエスト購入など）をもっと深める必要がある。
- ④ 子どものリクエストに迅速に対応する公民館図書室・学校図書室のネットワークづくりを推進する必要がある。
- ⑤ ボランティアの研修会などによって、読み聞かせ技術等の向上を図ることができた。また、視察研修で先進地を視察することにより、ボランティア等の活動・意識の活性化を図ることができ、他地域との交流・連携も深めることができた。
- ⑥ ブックスタート事業の実施による乳児段階での読書のきっかけづくりの提供ができた。今後は読書の定着をどうやって進めるかが課題。
- ⑦ 学校でのインターネットによらない事典などを使用した「調べもの学習」の充実を図るとともに、先生等による読み聞かせなど「朝読書の時間」の一層の推進が必要である。
- ⑧ 司書や常勤職員の配置や図書予算の増額をはじめとする村の読書中枢機関である公民館図書室の活性化が必要不可欠である。
- ⑨ 推進委員会と教育委員会とで共催している「読書まつり」は、様々な立場の人々が連携することにより、内容の充実が図ることができ、年々参加者も増加している。
- ⑩ 保護者へのPRや「ノーテレビデー」の開催など、家庭や地域での読書推進を図る方策が必要。



(3) 公民館図書室の現況

■蔵書冊数

蔵書全体 14,592冊 (H16年度) ⇒ 12,046冊 (H20年度)

児童書 8,066冊 (H16年度) ⇒ 7,336冊 (H20年度)

■貸出冊数

全体貸出 1,732冊 (H16年度) ⇒ 3,510冊 (H20年度)

児童書貸出 943冊 (H16年度) ⇒ 1,830冊 (H20年度)

■ビデオ閲覧者 185人 (H16年度) ⇒ 67人 (H20年度)

※全て児童・生徒利用

■インターネット利用者

一般利用 99人 (H16年度) ⇒ 63人 (H20年度)

児童・生徒 110人 (H16年度) ⇒ 355人 (H20年度)

4 計画の柱及び具体的な目標

本村では、地域の実情を踏まえ子どもたちの読書活動を推進するため、次のように計画の柱及び具体的な目標を設定いたします。

■読書推進の体制づくり (第1期) ⇒ 読書推進の人づくり (第2期)

- (1) 子どもたちが、読書習慣を身につけるための環境づくり
- (2) 学校、家庭、地域、関係機関が連携した読書活動の推進
- (3) 読書を親しむための機会の提供
- (4) 読書の楽しさを伝える啓発活動

☆具体的な目標 (平成26年度の目標数字)

① 1ヶ月の平均読書冊数 (平成21年11月のアンケートと比較して)

小学生低学年 7.5冊 → 9.0冊

小学生高学年 8.0冊 → 10.0冊

中学生 4.0冊 → 5.0冊

高校生 2.2冊 → 3.0冊

② 公民館図書室蔵書冊数

児童書 7,336冊 → 7,800冊

5 計画の対象

本計画は、0歳から18歳までを対象とします。

6 計画期間

平成22年度から平成26年度までの5年間とします。

第2章 具体的な取組

1 家庭・地域における読書活動の推進

子どもたちが自主的に読書を行うには、乳幼児期からの本の読み聞かせなど読書に親しむ環境が重要です。自然に子どもたちが読書習慣を身につけるためには、家庭での読書環境の充実や親による読み聞かせが大きな役割を果たし、それが親子の信頼関係にも繋がります。

また、地域においては乳児相談等の母子保健事業の機会での読み聞かせの実施や「おはなし会」の開催など本に触れ合う機会の提供や「子どもへの読み聞かせ」の重要性を家庭で理解が得られるような周知活動の促進が重要です。

このために、家庭での読書の大切さを啓発するとともに、ブックスタート事業等の充実、乳幼児からの読書に関する環境の整備、発達段階に応じた読書活動の推進を図ります。

【推進方策】

- (1) ブックスタート事業の継続及び内容充実を図り、「読書へのきっかけづくり」から「読書への定着」を目指した事業実施を推進いたします。また、母子保健事業等における読み聞かせのための絵本の充実を図ります。
- (2) 本村の読書活動の推進にはボランティアの活用が大きな役割を果たすことから、読書ボランティア活動の活性化のため、読み聞かせやおはなし会等の活動を支援いたします。
- (3) フリー図書館や古本バザー等の開催による家庭蔵書の交流・交換を積極的に推進し、家庭・地域での読書への意識の高揚を目指します。
- (4) 読書まつりや読書週間をはじめとする読書関連行事や子ども向け読書日より、母子保健事業などを通じ、家庭・学校・地域での読書への関心の高揚に努めます。
- (5) 学校・保育所・公民館図書室だけではなく、民間事業者なども含め、地域全体で気軽に読書と触れ合える環境を推進いたします。



2 学校等における読書活動の推進

学校においては、各教科の学習や総合的な学習の時間、朝読書の実施など、教育現場の中で読書活動を行っております。特に生活の大半を学校で過ごす児童期においては、学校での読書活動は子どもたちの読書活動の推進に大きな役割を果たしています。

そのため、学校図書室の役割は大変重要です。ボランティアや公民館図書室等と連携し、多様な読書活動の取組みを行い、子どもが身近に本に触れることのできるよう学校図書室の充実を図っていく必要があります。

保育所に通う時期は、人間形成・人格形成の基礎を培うための重要な時期にあたることから、豊富な絵本や童話等に親しみ、読み聞かせを通じ、子どもたちがイメージを膨らませ、想像し、心を豊かに感動する心を育む必要があります。

保育所においても、蔵書の充実や読み聞かせやおはなし会の開催を行い、子どもたちが本にふれあうことのできる機会の充実を図ってまいります。

【推進方策】

- (1) 子どもが豊かな感性を培い、元気に生き抜く力をつけるため、小中学校における朝読書を継続いたします。
- (2) ①教員を含めみんなでやる、②毎朝10分実施、③好きな本を読む、④感想を求めないという原則を念頭に、朝読書の実施を心掛けていきます。
- (3) 各学校における読書活動の推進に対して、関係機関等が積極的に協力・支援を図っていきます。
- (4) 調べもの学習への対応や朝読書の推進のため、学校図書室の蔵書の充実を目指します。また、公民館図書室や他の学校図書室とのネットワーク化を図り、蔵書不足に対応していきます。
- (5) 学校図書室の整備や各学校における読書活動の支援のため、ボランティアや公民館図書室等が連携し、地域一体となった学校での読書活動の推進を目指します。
- (6) 高校の図書館としての役割を果たす公民館図書室の充実を図るため、高校と連携し、活用しやすい図書室としての運営を目指します。
- (7) 保育所において、絵本や児童書の充実や絵本等の園児向け貸出を行い、家庭での読書の推進を目指します。
- (8) 保育所でのおはなし会の開催など、発達段階に応じた読書活動を推進し、子どもたちの健全育成に努めます。



3 公民館図書室における読書活動の推進

図書館のない本村において、公民館図書室は村の読書活動の中核として大きな役割が求められています。公民館での図書の貸出だけではなく、各学校など村内関係機関との連携からボランティアの育成をはじめ、他地域の関係機関との連携や職員の専門的知識の醸成など、公民館図書室が果たすべき役割は多種多様です。

今後においても、子どもたちの読書活動の推進拠点として、乳幼児や保護者、児童・生徒にいたるまで、気軽に足を運べる心地よい居場所となれるよう、夢のある公民館図書室の運営・読書環境の充実を目指します。

【推進方策】

- (1) 村内各学校に対し、本の団体貸出を行い、学校・家庭での読書活動の推進を図ります。
- (2) 子どもたちの読書活動の充実を図るため、優れた児童書の選書・収集に努めます。また、子どもたちのリクエストに即対応できる「読みたいときに、すぐ本が手元に届く」という体制の充実を図ります。
- (3) 子どもたちへの情報提供ツールとして、子ども向けの読書だよりを定期的に発行し、子どもたちが身近に本や読書に関する情報を得られるような啓発に努めます。
- (4) 本の貸出については、各学校との連携を強化し、ネットワーク化を目指すとともに、道立図書館をはじめ近隣図書館等の関係機関と相互貸借等で連携し、貸出の充実を図ります。
- (5) 図書関連イベントなどを読書ボランティア等と協働で開催し、魅力ある図書室の運営を目指します。
- (6) ボランティアの育成や発掘のため、研修会等を開催し、計画的なボランティアの確保と読み聞かせ等の技術向上に努めます。
- (7) 公民館図書室の利用促進と利便性の向上のために、図書室のホームページの開設を目指します。
- (8) 親子が気軽に利用でき、子どもたちが楽しく活用できるよう、図書室の整備を随時進めてまいります。
- (9) 公民館図書室が本村の読書振興の中核としての役割を果たすために、司書や常勤職員の配置、図書予算の充実を目指します。



4 関係機関の連携・協力による読書活動の推進

これまでも子どもたちの読書活動を推進するため、多くの方々に読書活動の振興と普及に携わっていただきました。現在も、各学校・保育所・ボランティア・関係機関・公民館図書室等がそれぞれの特性を生かした読書活動を推進しておりますが、更なる関係機関の有機的な連携と協力が不可欠です。従って、このような有機的な連携から情報交換・交流をより深め、地域ぐるみで読書環境の整備と充実に努めてまいります。

【推進方策】

- (1) 各学校、保育所、ボランティア、図書室利用者、行政等による「子どもたちの読書活動推進委員会」を組織し、子どもたちの読書推進に関わる企画の立案や情報交換等を積極的に行い、地域一丸となった活動に取り組めます。
- (2) 子どもたちの読書活動推進委員会を中心に、「読書まつり」など読書関連イベントを開催いたします。
- (3) ボランティアによる読書普及活動の拡大を目指し、読書に関するボランティア活動に対する支援や計画的な研修会等を実施いたします。
- (4) 道立図書館や近隣図書館・近隣ボランティア等と積極的に連携・情報交換等を行い、村内外の枠を超えた読書活動の活性化と充実に努めてまいります。



真狩村子どもたちの読書活動推進計画（H22～26）推進項目

推進項目		H22	H23	H24	H25	H26	主体
	子ども読書だよりの発行						
評価基準	発行回数、子どもの反応	○	○	○	○	○	第1部会
	読書ボランティア研修会の実施						
評価基準	開催内容、回数、参加人数、効果	○		○		○	第2部会
	大量貸出の際の選書ボランティア						
評価基準	協力人数、効果	○	○	○	○	○	第2部会
	フリー図書棚の運営						
評価基準	入替作業の実施回数、利用者の声、寄贈の本の数、認知度	○	○	○	○	○	第3部会
	家庭・保護者へのPR活動						
評価基準	PR内容、家庭や保護者の反応	△	○	○	○	○	第1・3部会
	視察研修の実施						
評価基準	真狩で活用できるものは何だったか	管内	管内	管内	先進地	管内	第3部会
	読書まつり(週間)の実施						
評価基準	内容、協力者及び参加人数等	○	○	○	○	○	推進委員会
	子ども読書アンケートの実施						
評価基準	アンケート結果の活用		○		○	○	推進委員会 教育委員会
	子どもたちの読書活動推進委員会の開催						
評価基準	内容、各関係機関等の連携等	○	○	○	○	○	推進委員会
	読書関連行事の企画・運営						
評価基準	内容、回数、参加人数	○	○	○	○	○	推進委員会 公民館図書室
	朝読書の実施						
評価基準	実施内容、読書冊数	○	○	○	○	○	各学校
	調べもの学習の充実						
評価基準	本の活用ができていないか、学校図書室の利用状況	△	△	△	△	△	各学校 公民館図書室
	学校・図書室のネットワーク化						
評価基準	貸出冊数や問合せ件数	△	△	△	△	△	各学校 公民館図書室
	蔵書の充実						
評価基準	蔵書数の推移、除籍の実施	○	○	○	○	○	村全体

推進項目		H22	H23	H24	H25	H26	主体
ブックスタート等乳幼児の読み聞かせ							すくすくブック 住民課 図書室
評価 基準	回数、内容、連携等	○	○	○	○	○	
おはなし会の開催及び支援							おはなしポテト
評価 基準	回数、内容、連携(支援)等	○	○	○	○	○	
子どもたちが気軽にリクエストできる環境整備							公民館図書室
評価 基準	リクエスト数	○	○	○	○	○	
古本の交流事業							公民館図書室
評価 基準	回数、内容(方法)等	○	○	○	○	○	
学校への巡回移動図書等の実施							公民館図書室
評価 基準	回数、貸出冊数、利用者数等	○	○	○	○	○	
公民館図書室のHPの開設・運用							公民館図書室
評価 基準	HPの開設、運用内容等の検討	△	△	△	△	△	
公民館図書室の整備							第2部会 公民館図書室
評価 基準	整備内容、その後の評価等	△	△	△	△	△	
公民館図書室への司書(常勤職員)の配置							公民館図書室
評価 基準	配置の有無	△	△	△	△	△	
本の読み聞かせの推進							村全体
評価 基準	家庭・保育所・学校・おはなし会等 での状況	○	○	○	○	○	
評価 基準							
評価 基準							
評価 基準							
評価 基準							
評価 基準							
評価 基準							

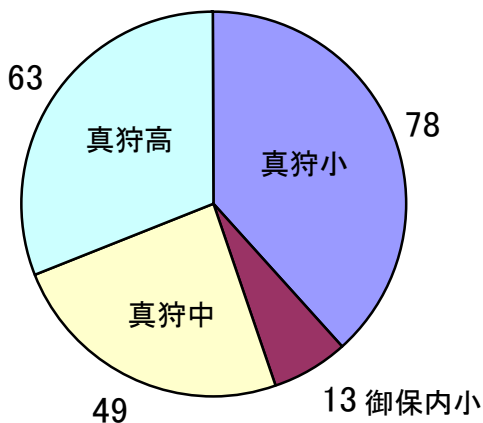
○=実施項目、△検討項目

第2期真狩村子どもたちの読書活動推進計画検討経過

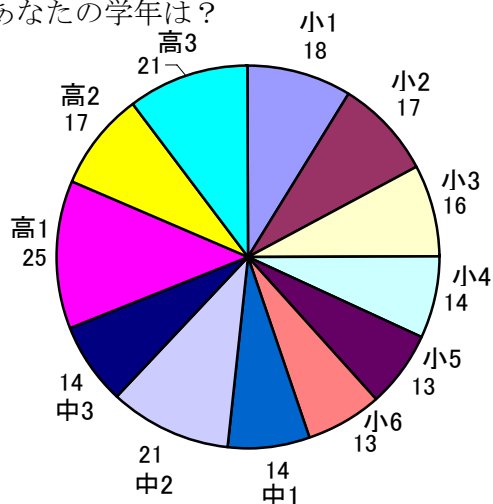
- 平成21年6月3日
第1回真狩村子どもたちの読書活動推進委員会開催
内容 第1期計画のふりかえり、反省、第2期計画への意見
- 平成21年6月3～30日
読書活動推進委員へのアンケートの実施
- 平成21年9月9日
第2回真狩村子どもたちの読書活動推進委員会開催
内容 第1期計画のふりかえり、第2期事業計画
- 平成21年10月28日
第3回真狩村子どもたちの読書活動推進委員会開催
内容 第2期計画の推進項目、子ども読書アンケートの実施について
- 平成21年11月11～12日
先進地視察研修 石狩市民図書館・恵庭市立図書館ほか
- 平成21年11月9～12月10日
子ども読書アンケートの実施
- 平成22年1月13日
読書ボランティア研修会の際に、アンケート結果を報告
- 平成22年2月3日
第4回真狩村子どもたちの読書活動推進委員会開催
内容 第2期計画（案）の修正等
- 平成22年3月1日～14日
パブリックコメント（意見募集）の実施。
- 平成22年3月31日
第5回真狩村子どもたちの読書活動推進委員会の開催
内容 第2期計画の決定
- 平成22年4月1日
教育委員会議にて承認

本アンケートは、子どもの読書活動の状況調査を行い読書活動の日常化を推進するものです。また、子どもの読書推進を図るため設立された「真狩村子どもたちの読書活動推進委員会」等の会議において、本アンケート結果を活用し今後の真狩村の読書活動の推進を図ってまいります。

1、あなたの学校は？



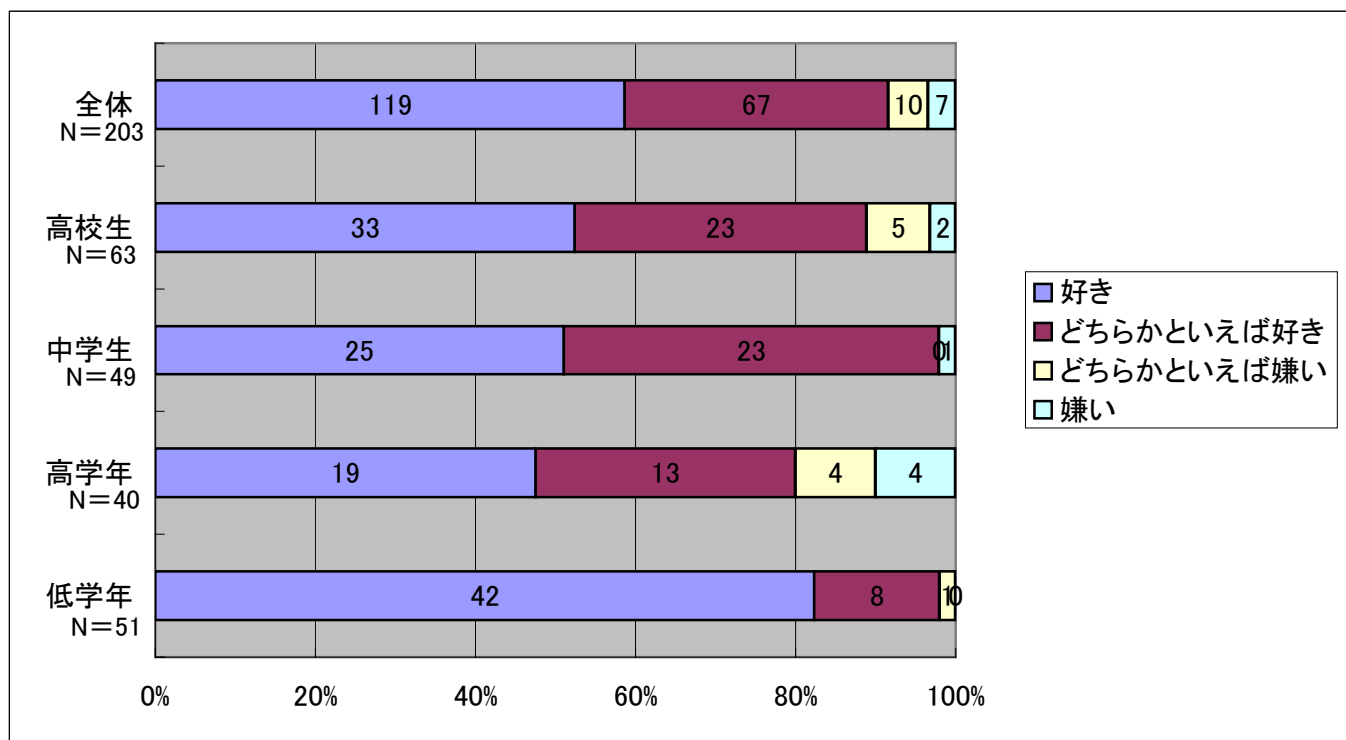
2、あなたの学年は？



N=203

N=203

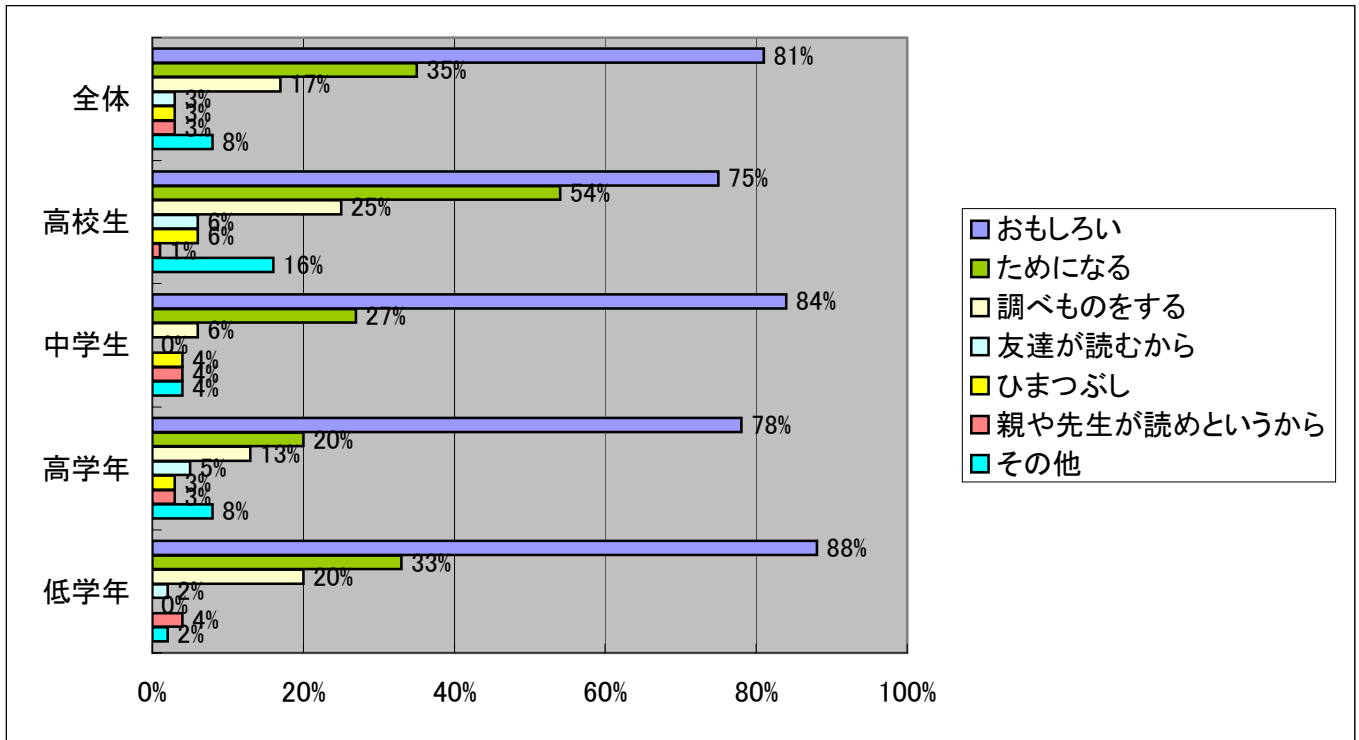
3、本を読むのは好きですか？



【コメント】

本を読むことについては、低学年と中学生が1名以外「好き」または「どちらかといえば好き」と回答しているが、全体で言えば「好き」が59%、「どちらかといえば好き」が33%、「どちらかといえば嫌い」が5%、「嫌い」が3%となっている。一番嫌いな割合が多い（20%）のが小学生高学年という今回の結果となりました。

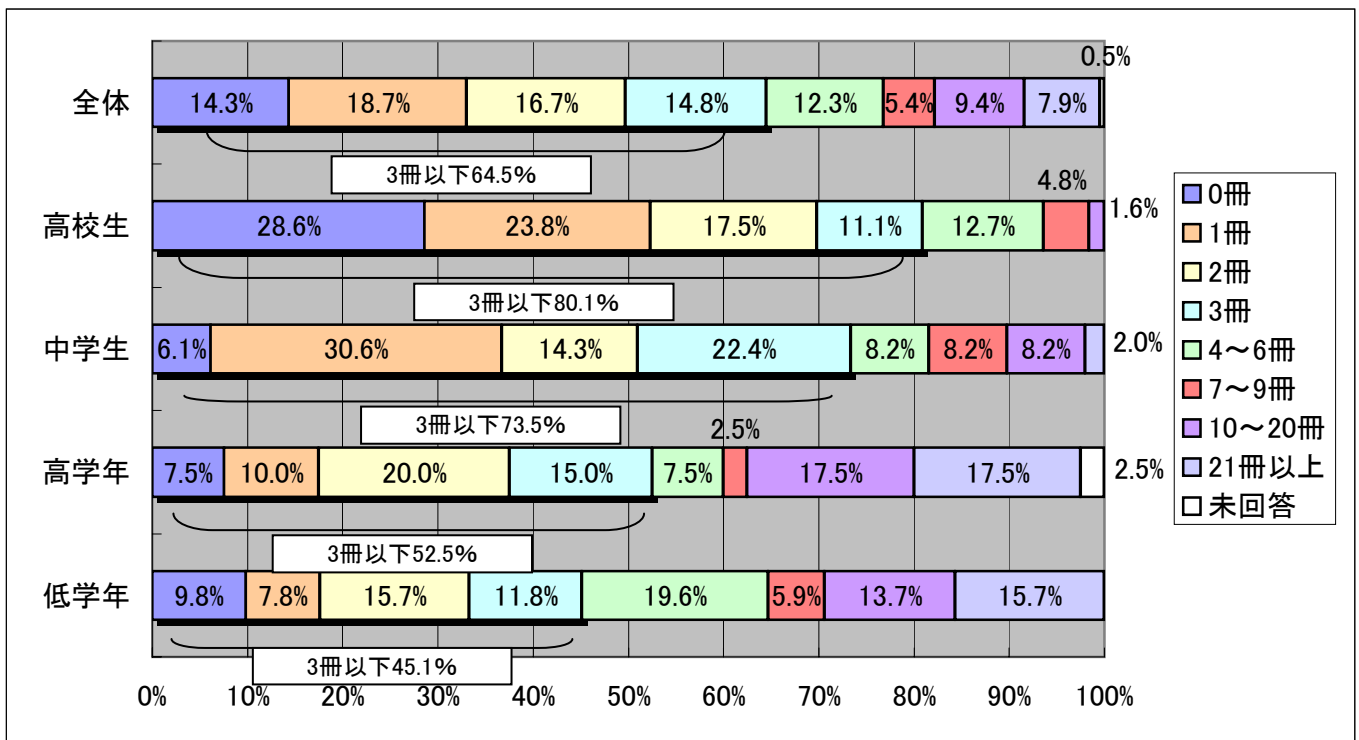
4、本を読むのはどうしてですか？（複数回答可）



【コメント】

全体で「おもしろい」から本を読んでいると答えた方が断然多く81%、続いて「ためになる」が35%、以下「調べものをする」17%となった。また受動的な回答である「友達が読むから」や「親や先生が読めというから」がそれぞれ3%回答があった。インターネットの普及や調べもの学習に対応する辞書等が少ないせいか「調べものをする」と回答した割合が、小学校高学年で13%、中学生では6%だった。

5、先月（H21年10月）一ヶ月に、マンガ以外で何冊本を読みましたか？



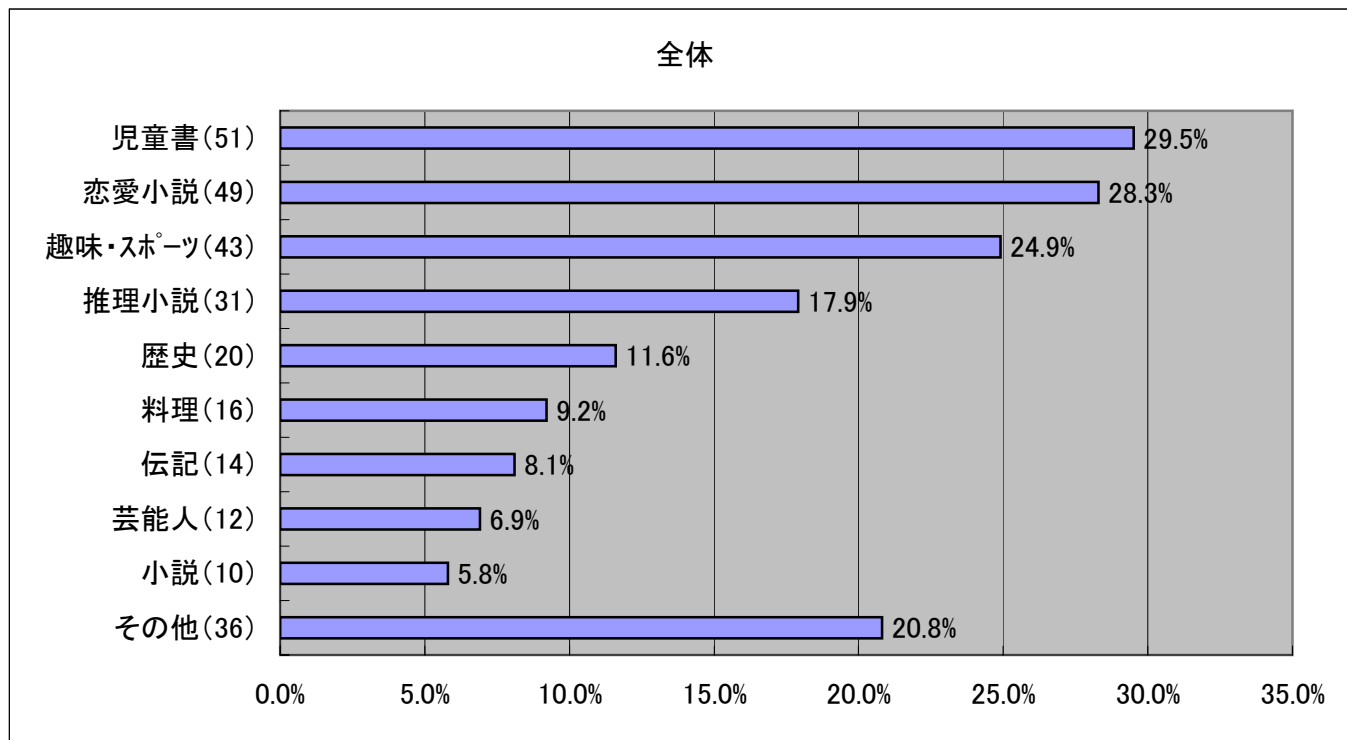
平均読書冊数

①小学生低学年	7.5 冊	※ 4～6冊は5冊、7～9冊は8冊、10～20冊は15冊、21冊
②小学生高学年	8.0 冊	以上は21冊として計算し、人数で割った数字です。
③中学生	4.0 冊	
④高校生	2.2 冊	
⑤全体	5.1 冊	

【コメント】

全体では、0冊が14.3%など3冊以下の割合が64.5%ありました。小学生は約3割の児童が10冊以上読書をしているという結果となりましたが、全体の傾向として年齢が上がるにつれて、読書冊数が減少傾向にあります。なぜか朝読書を実施している小中学校で6%～10%の児童・生徒が0冊の回答をしています。

6、 読んだ本のジャンルはなんですか？（1冊以上と答えた人：複数回答可）



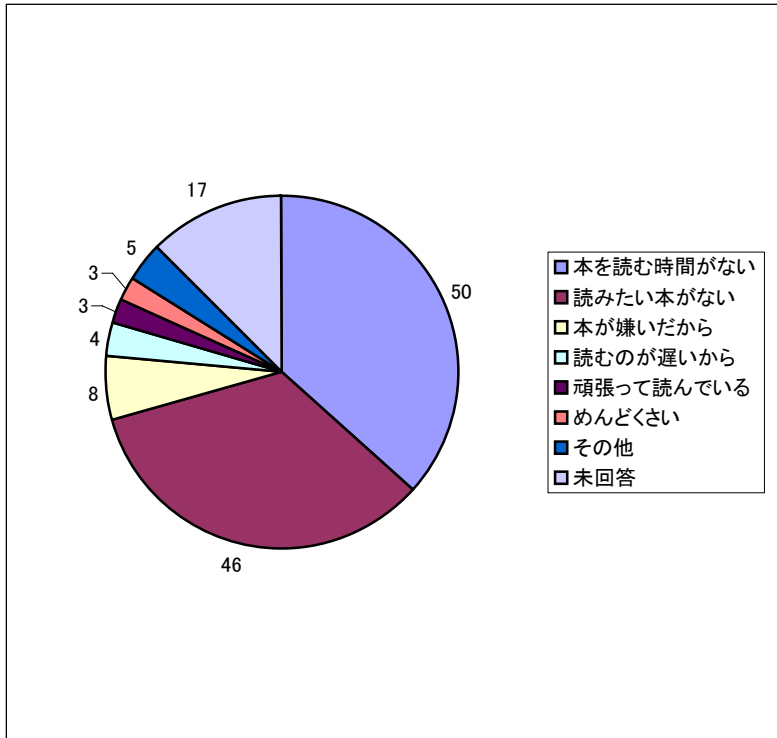
少数意見

ドキュメンタリー	9						
ホラー系	5	【低学年】		【高学年】			
ビジネス本	5	1位	児童書	36	1位	趣味・スポーツ	14
社会科系	1	2位	料理	7	2位	児童書	11
文学の本	1	3位	趣味・スポーツ、推理	5	3位	伝記	7
ケータイ小説	1						
エッセイ	1	【中学生】		【高校生】			
詩集	1	1位	恋愛小説	21	1位	恋愛小説	22
哲学	1	2位	推理小説	11	2位	趣味・スポーツ	15
その他（不明）	6	3位	趣味・スポーツ	9	3位	推理小説	11
未回答	5						

【コメント】

小学生は児童書、趣味・スポーツが人気で、中学生や高校生は恋愛小説や推理小説などが支持されている。こういった結果を参考に今後の書籍の購入を図っていきたい。

7、本を読まなかったのはなぜですか？（3冊以下と答えた人、複数回答可）



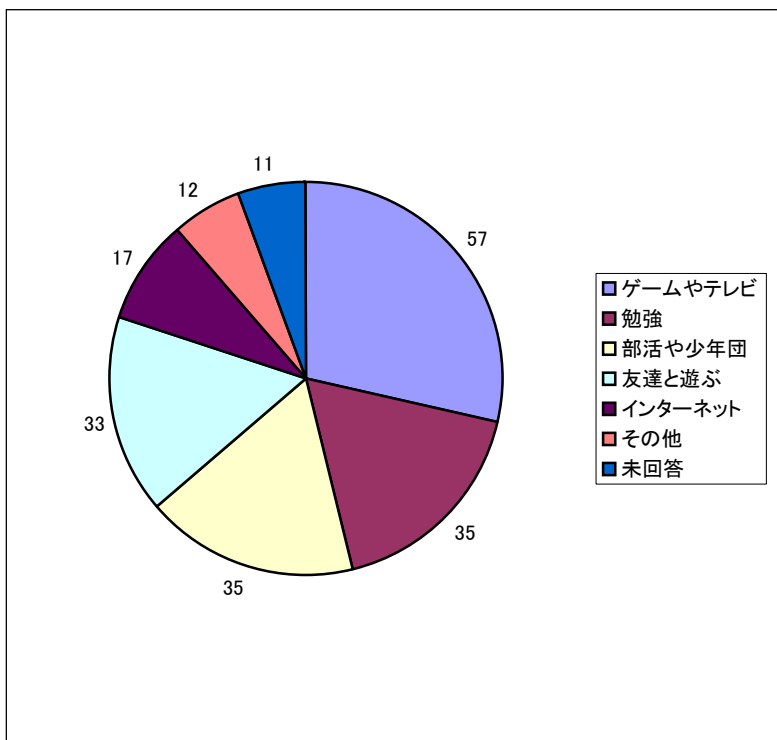
【コメント】

3冊以下の児童・生徒を対象に「なぜ読まないのか？」また「読まないで何をしているのか？」を尋ねたところ、左記のような結果となりました。

読まない理由の一番が「時間がない」。ゲームやテレビ、勉強、部活動、そして友達と遊んでいるため「本を読む時間がない」という現状です。基本的に本が好きだが、優先順位はそれらより劣るということでしょうか？

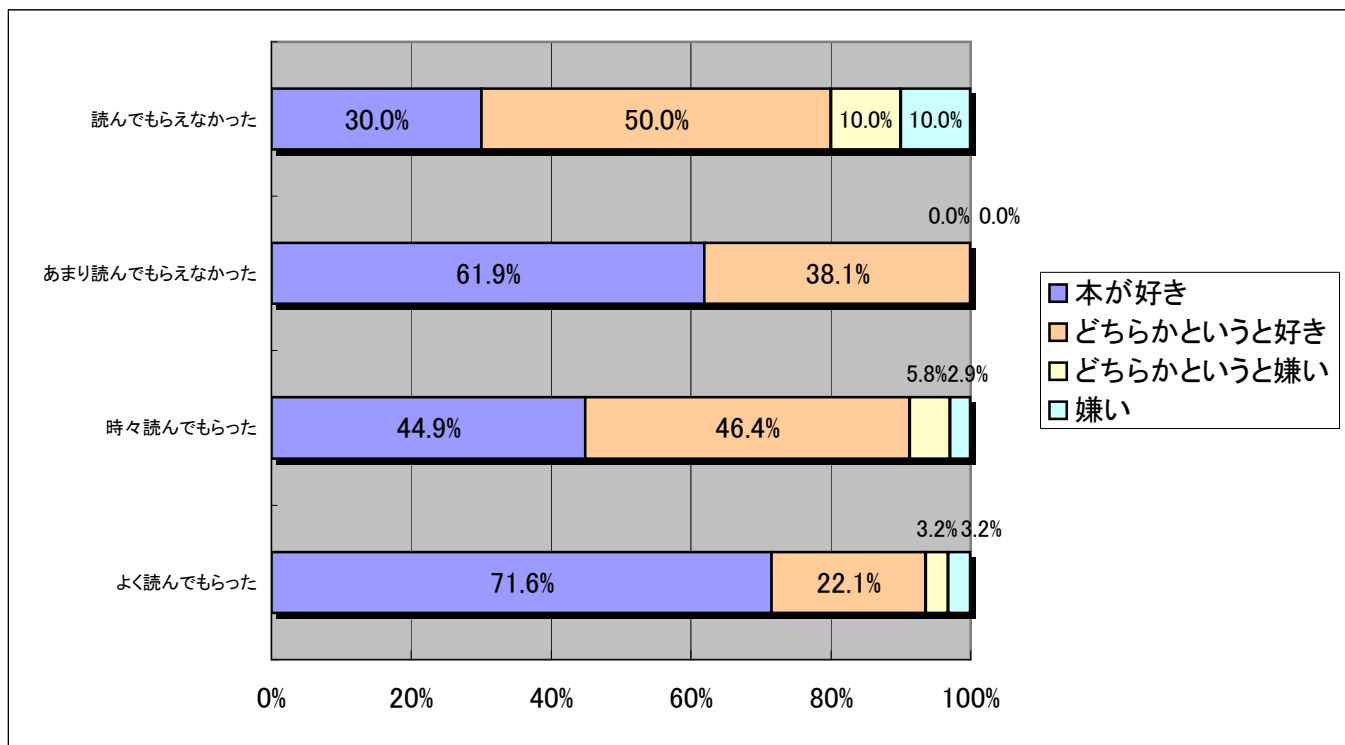
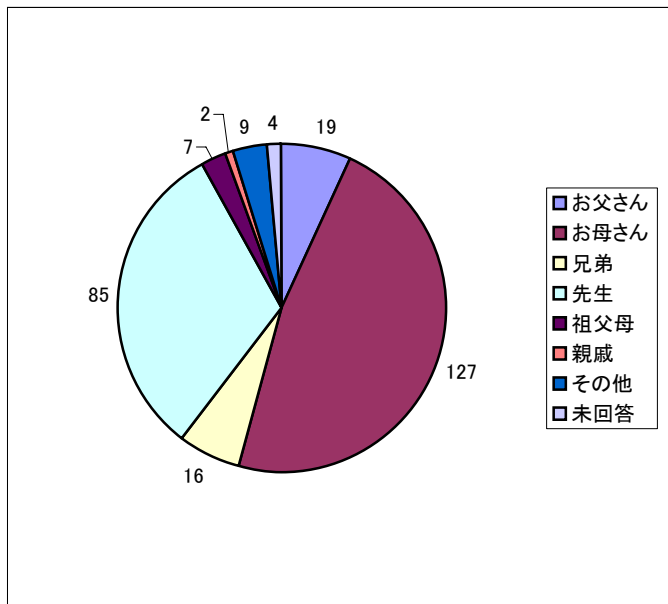
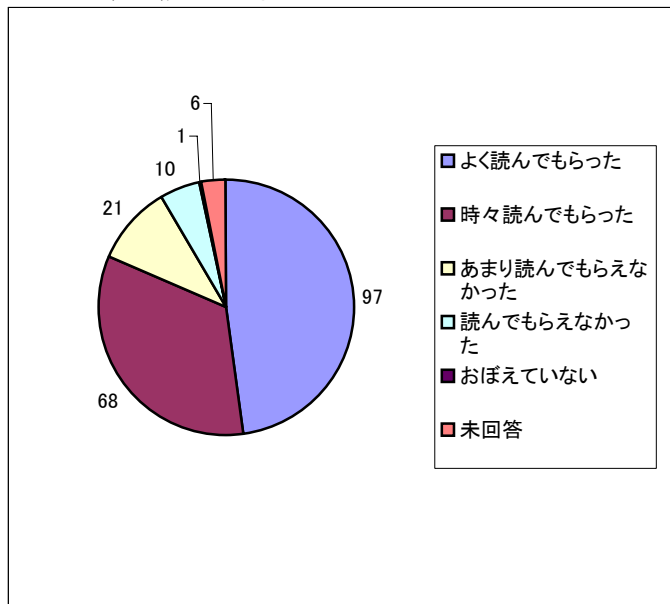
「読みたい本がない」という理由が第2位（131人中46名が回答：35%）というのは大変憂慮すべき問題です。「子どもに本を届ける」というキーワードの下、図書室での蔵書の充実、本の情報提供などが課題として挙げられます。

8、本を読まないで何をしていますか？（複数回答可）



9、小さいとき（学校に入る前）に周りの人に本を読んでもらいましたか？

10、誰に読んでもらいましたか？（複数回答可）

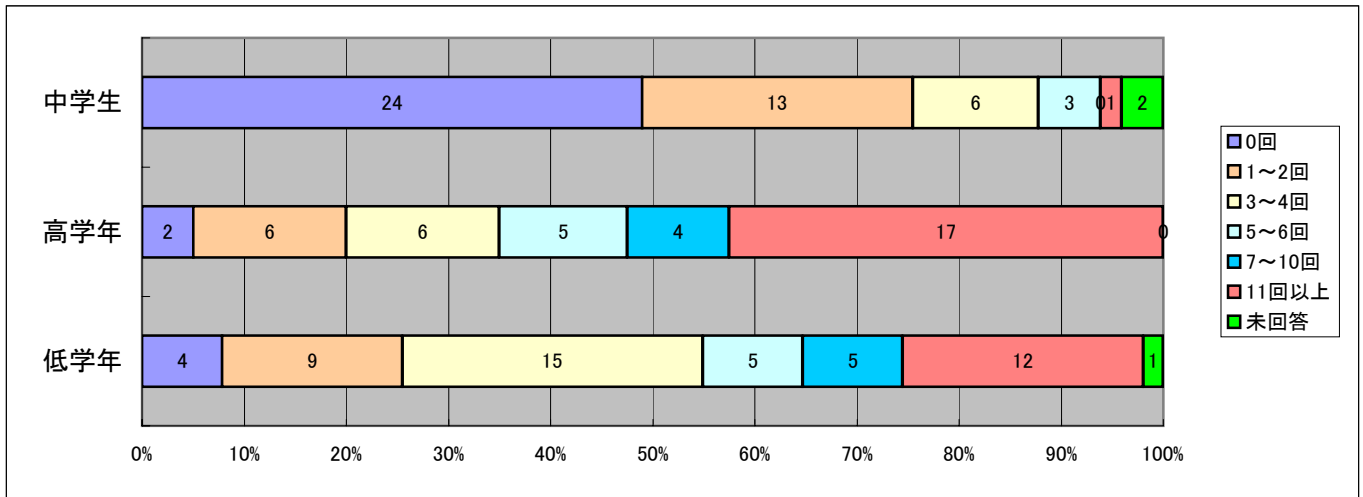


【コメント】

「本をよく読んでもらった」との回答が約48%、「時々読んでもらった」との回答が約33%、「あまり読んでもらえなかった」と「読んでもらえなかった」との回答は併せて約15%あった。誰に読んでもらったかの質問については、お母さん、先生、お父さん、兄弟、祖父母の順で多く、乳幼児や児童期においては「お母さん」「先生」が大変重要な役割を果たしています。

また、「よく読んでもらった」と回答した児童・生徒の約7割が「本が好き」と回答していることからわかるように、小さい頃の「読み聞かせ」は読書の推進を図る上でキーポイントとなるので、家庭や学校での読み聞かせ推進策が必要です。

11、先月（H21年10月）の一ヶ月間で学校の図書室に何回行きましたか？（小中学生のみ回答）



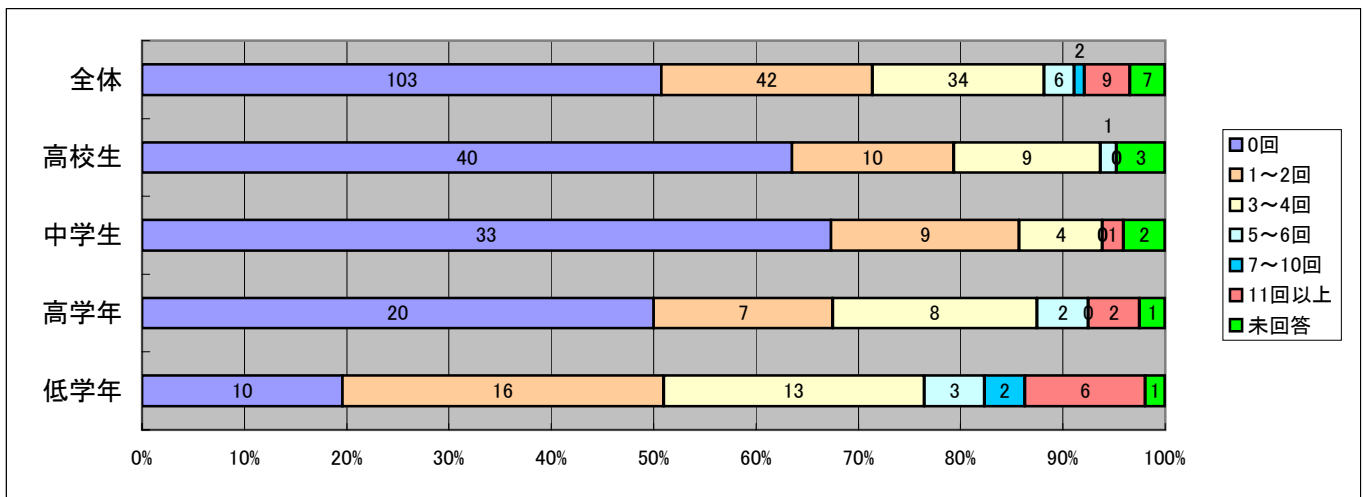
12、学校の図書室に行かなかったのはなぜですか？（0回と答えた人、複数回答可）

- 1位 読みたい本がない 12
- 2位 時間がない 7
- 2位 遊ぶほうが楽しい 7
- 4位 めんどくさい 6
- 5位 用事がない 5
- その他 部活や少年団が忙しい (2)、公民館図書室に行くので (1)、自分の本があるので (1)

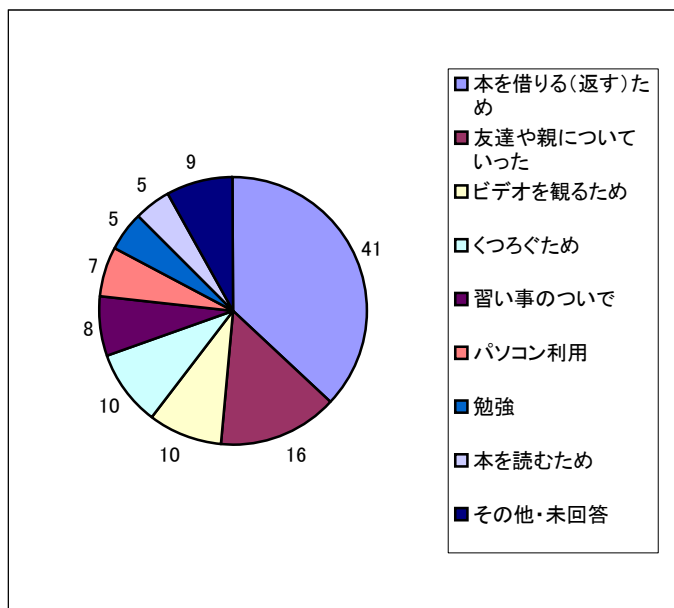
【コメント】

小学校高学年は40%以上が11回以上学校の図書室を利用する一方、中学生は約半数が図書室を利用していない状況にあります。朝読書を実施している小中学校において明暗の分かれる調査結果となりました。また理由では「読みたい本がない」が堂々の1位に輝きました。子どもたちから、学校図書室の蔵書の充実を求められています。

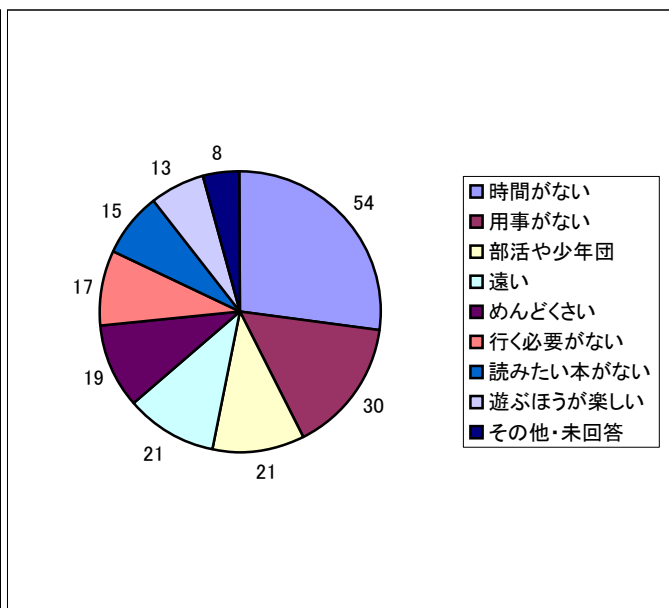
13、先月（H21年10月）の一ヶ月間で公民館の図書室に何回行きましたか？



14、 公民館の図書室に行った目的は何ですか？
(1回以上行った人、複数回答可)



15、 公民館の図書室に行かなかったのはなぜですか？ (0回の人、複数回答可)



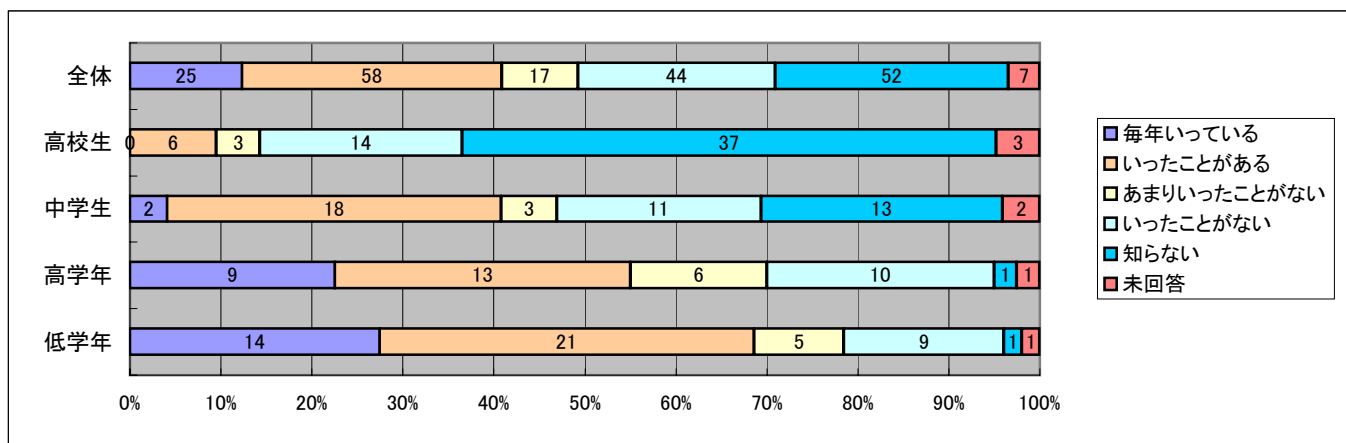
【コメント】

全体では、約半数の人が利用しているという結果ですが、これも他の設問同様、低学年の利用が多く年齢が上がるにつれ利用割合は低くなっています。公民館図書室は高校の図書室としての機能も持っておりますが、利便性が悪いのか3割程度の生徒しか利用がない状況です。

公民館図書室の利用目的では、「本を借りるため」が一番多く、次に「友達や親についていった」、「ビデオを観るため」といった順になっています。「くつろぐため」と10名回答しており、職員の配置は本の貸し借りだけではない付随・付帯する効果もありそうです。

行かなかった理由については、「時間がない」「用事がない」「部活や少年団活動」「遠い」などが挙げられ、「行く必要のある公民館図書室」の運営を目指す必要があります。

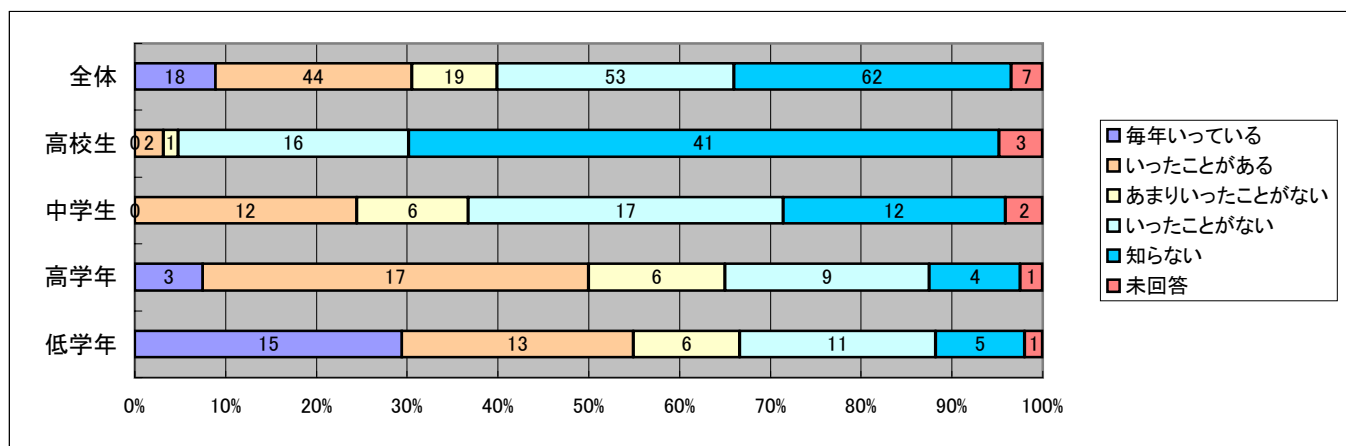
16、 読書まつりにいったことはありますか？



【コメント】

休みの日の開催から平日開催にし参加者が年々増加している読書まつりですが、主な対象である小学生には概ね認知されていますが、中学生以上への認知度や参加が少ない状況です。今後は中高生の主催者側としての参加等ができれば、世代を超えた読書推進の輪がもっと強いものになるのではないのでしょうか？

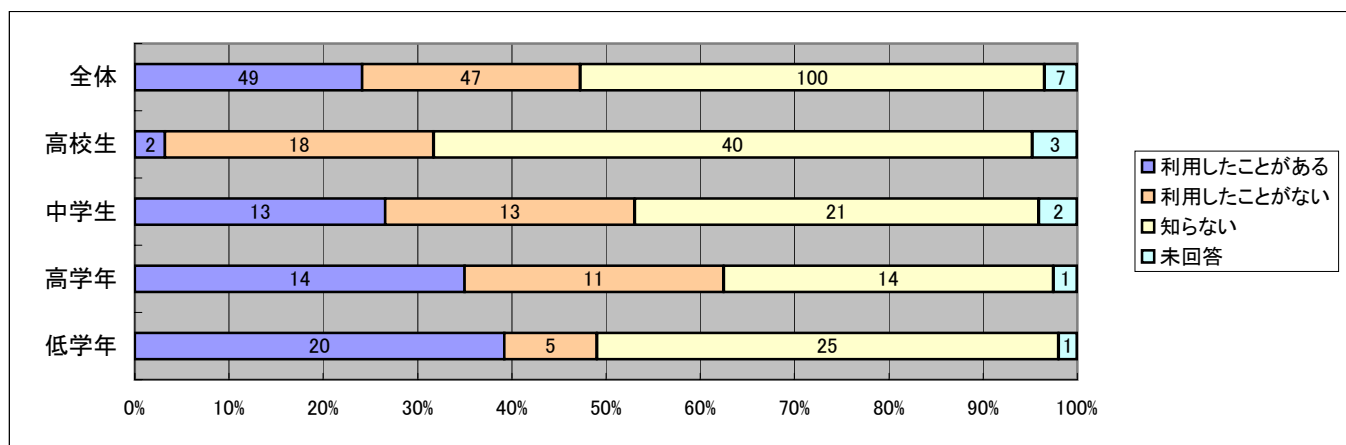
17、おはなし会にいったことはありますか？



【コメント】

主として、保育園児や小学生低学年をターゲットとして開催されているため、認知度は他の設問同様、中高生では低くなっている。低学年では「毎年いっている」と「いったことがある」が併せて約55%ありました。

18、フリー図書棚を利用したことがありますか？



19、どこのフリー図書棚を利用したことがありますか？

役場 (2)、保健福祉センター (13)、まっかり温泉 (17)、交流プラザ (34)

【コメント】

全体で半数の方が「知らない」と回答いたしました。今後は認知度UPに向けた周知が必要です。利用場所では、交流プラザが一番利用されている結果となりました。

あいさつ

真狩村では、平成16年6月に子どもたちの読書活動推進計画策定のために「子どもたちの読書活動推進委員会」が発足しました。この会の発足にあたり、各学校、保護者、図書室の利用者、ボランティア団体など各方面よりご理解を賜り、委員を選出していただいてから5年半の歳月が流れました。この間、平成17年3月に「真狩村子どもたちの読書活動推進計画（第1期）」を本委員会で立案し、以来5年間の活動を推進してきたところです。

この5年間、本委員会は村内の子どもの読書に関わる団体、個人が一堂に会する場として機能してきました。従来は個別に行われていた活動を「子どもたちが、読書習慣を身につけるための環境づくり」「学校、家庭、地域、関係機関が連携した読書活動の推進」「読書に親しむための機会の提供」「読書の楽しさを伝える啓発活動」の4つの目標を柱に相互に連携、補完しながらの活動へと発展させてきました。それらは、具体的にはブックスタート、読み聞かせ、図書室の充実、家庭図書の交流、読書祭り、読書習慣の醸成、ボランティア研修会の開催などの多岐にわたり、多くの成果を残してきました。

関連団体相互の活動の交流、推進委員会としての事業の開催により、縦によるつながりから横のつながりへと変化が生まれ、運動の裾野の広まりと運動への理解の深まりがこの5年間で進んだと考えるところです。

この5年間で培ったものを土台にして、この度「第2期真狩村子どもの読書活動推進計画」を策定することができました。まだまだ、子どもをとりまく読書環境は厳しいものがあることも否めません。しかし、この5年間で築いた礎を大切にしながら、真狩の子どもたちが読書を楽しみ、読書を通し成長することを願い第2期計画を具現化していきたいと考えております。村民のみなさんの一層のご理解とお力添えをお願いし挨拶に代えさせていただきます。最後になりますが、この5年間の活動を支えて下さった委員の方々、関係団体の方々のご苦勞に対し心から感謝申し上げます。

平成22年3月

真狩村子どもたちの読書活動推進委員会
委員長 大野 秀久

真狩村子どもたちの読書活動推進委員名簿

委員長 大野 秀久
副委員長 山 上 ゆかり

第1部会

大野 秀久 (真狩小学校) ○工藤 雅之 (真狩高校)
漆原 了 (村P連会長) 佐々木 剛 (社会教育委員)

第2部会

森田麻紗子 (御保内小学校) 山上ゆかり (学童保育)
○中西 裕子 (おはなしポテト) 佐藤 道子 (おはなしポテト)
浦 美加 (おはなしポテト) 原田真衣子 (図書室利用者)

第3部会

榊 姫名 (真狩中学校) 山田 秀子 (図書室利用者)
○秋口 京子 (保健師) 小林 良美 (まっかり保育所)
渡辺 千尋 (図書室管理人) 藤川 雅 (図書室利用者)

※○は部会長

事務局 (教育委員会社会教育係)

本間 亨 橘 靖広 藤本 篤